

第3回境港市男女共同参画推進審議会 会議録

次 第

- 日 時：平成25年 8月21日（水） 14：00～15：35
- 場 所：境港市役所 第1会議室
- 日 程

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

- (1) 境港市女と男といきいきプラン（境港市男女共同参画推進計画）改定（案）
（資料14、15、16、17）

4 そ の 他

次回日程について

5 閉 会

■出席者（敬称略）

高木 敏行、岩間 悦子、渡部 斗支子、荒井 祐二、金津 唯可
大西 孝弘、戸田 隆久、松本 町子、入江 和行（9人）

■欠席者（敬称略）

盛山 啓二（1人）

■ 会議録（要旨）

1 開会（柏木地域振興課長）

2 会長あいさつ（高木会長）

3 議 事

（1）境港市女と男といきいきプラン（境港市男女共同参画推進計画）改定（案）
について <事務局・手島人権政策室長> 資料14・15を説明

<荒井委員>

- ・全般的に全ての分野が網羅されていて問題はない。
- ・例えばどのページでも、「市民」が「事業者」が、「参画します」「向上に努めます」、「します」となっているが、計画そのものを、市民、事業者が、自分のものとして捉えていないと、「します」にならない。計画そのものをそれぞれの分野、団体で本気で取り込んでくれないと意味がない。これから浸透させる手段をどうするかですね。

<金津委員>

- ・計画の見直しをして、いいものができてきていると思うが、どうやって実際に運営していくのか。例えば「市民」と書いてあるところは、その内容を市民に周知してもらう必要がある。「事業所」、「市」となると、事業所の代表の方とか、市のそれなりの部署の方が把握されて、その中で浸透するというのも可能かもしれないが、市民となるとどうやって、できたものを皆さんに少しでも広めていくのか、身近なものとして考えてもらえるのか。家庭の中でも一部の人しか市報に目を通さないのが現実だと思うので、市報ばかりに頼らず、どうやって広めていくかが一番の課題だと思う。

<岩間委員>

- ・色々な観点から網羅されている。
- ・何ヶ月か前に市報と同時に子ども用と大人用のパンフレットが配られたが、それがどういう反響があり、どういう効果があったのか、あれば教えていただきたい。
- ・計画を練るにあたって、前の「女と男といきいきプラン」のどんな点がいけなくて、どんなふうに改定したのかを教えていただきたい。
- ・女性の参画について、例えば女性の管理職を何パーセント作りましょうとか、数的な目標が入れば実現に向かってやりやすいのではないか。条例の検討委員会は15名のうち女性が8名、男性が7名、半々だったが、審議会は男性が多く女性が少ない。こういうふうにばらつきがあるのはよくない。

<事務局・柏木地域振興課長>

- パンフレットの配布については、後のフォローをしておりません。子どもの関係は4月の校長会で、男女共同参画の推進、人権教育に使ってほしいとお願いしております。その後の状況を先生方に聞いてみたいと思います。
- 「女と男とのいきいきプラン」のどんな点がいけなかったというご質問ですが、決していけなかったということはない。今回、新たな視点で見直すということで、前回のプランもそうですし、今回のプランもそうですが、いかに市民に浸透させていくかが課題であると思います。
- 審議会の女性の登用率の目標を入れるということですが、その点につきましても今後、市の方で推進体制を整備していきます。その中で当面の目標を設定して、審議会の女性の登用率を高めていきたいと思います。今の時点で市の審議会の登用率が22.2パーセントですので、県のように40パーセントと大きな目標を掲げる前に、まずは30パーセント位を目標にすべきかなとは思っています。

<岩間委員>

- ・よその地域では女性の公民館長も増えてきているという状況も聞きましたが、境ではまだ1人もいないですね。

<松本委員>

- ・過去にはありました。

<大西委員>

- ・22ページ、「政策・方針決定過程への女性の参画促進」の、主な取組で「市審議会等委員の男女の構成比率の目標を設定します。」という形になっている。こういう形で留めるのか、もう1歩踏み込んだ形で、例えばこの計画の中に具体的な数値目標を挙げて、先ほどありました推進体制、連絡協議会の中で当面の目標を設定していくのか。今後5年間の目標であれば、ここの辺りは具体化した数値を挙げたほうが一つの目標としていいのかなと私は思っている。今日、来る前に各市町村の計画を見てきたが、市町村によって具体的に書かれているところもあれば、こういう表現に留まっているところもあって、一概にどちらがいいとは言いきれない部分もあるが、少しご検討いただいて、市民とか行政自身の一つの目標となるような計画という位置付けであれば、具体的な数値があるほうが、より実効性のある計画になるかなと思った。
- ・少し気になった表現で13ページ、事業者の欄で、「セクシュアル・ハラスメントのない職場環境づくりに努めます。」とあるが、この、「努めます」という表現がどうかかなと思った。セクハラについては事業者にその対策防止が法律上、義務付けら

れており、努めますという言い方は、もう少し積極的な、前向きな表現、例えば「取り組みます」とかの方がふさわしいと思う。

<岩間委員>

- ・この中でどこにそれを入れたらいいのかと思ったのが、男女共同参画週間に啓発として、市も何か計画を立てたらいいかなあというのが1点と、人権尊重の部分でいじめの問題も入っているといい。
- ・表紙の見出しはおおよそこれでいくのか。

<事務局・柏木地域振興課長>

→皆さんの方で何かあれば検討させていただきます。

<岩間委員>

- ・女性団体連絡協議会の中で、表紙の見出しを検討して、印象に残る、いい表紙にしてほしいという意見があった。前回、「女と男とのいきいきプラン」で、その名前を引き継いでいけばいいんじゃないかと決まったと思うが、愛称としてこれが入ってくるわけですね。大きな見出しとして、「境港市男女共同参画推進計画」を出されるのか。

<事務局・柏木地域振興課長>

→事務局としては、提案させていただいているものでどうかと考えています。

<岩間委員>

- ・女性団体連絡協議会の役員会で、せっかく条例も決まって、さあこれから第1歩で行こうという時に、前の「女と男と」では新しい感じがしない、そういう声があったと言っておいてほしいということだった。前と同じだと新鮮味がないということで、参考までに。

<金津委員>

- ・娘が、中学生向けのパンフレットをもらって帰って来ていた。どのように配られたか聞かなかったが、もう配布済みの学校も多いと思う。ただ配られただけという学校もあるのでは、という気がした。せっくなので、もう配布された学校も、この「女と男とのいきいきプラン」のことを盛り込んだ学習をしていただくよう、学校長の方にお伝えいただけたらいいなと思った。
- ・私には「女と男とのいきいきプラン」という名称は新鮮で、初めて見たのと同様で、この会に来て初めて知ったというのが本場で、多分、そういう市民が圧倒的に多

いのではないかと思う。男女共同参画に関わってこられた方々は何年も見ている、古いという感覚になられると思うが、その辺りもあって、前回、いい名称なので残したらということだったと思う。ただ、表紙を作るときの構図の構成の問題で、「女と男とのいきいきプラン」、「境港市男女共同参画推進計画」という文字をどこに持ってくるのか、大きさをどうするのかで、すごく印象が違う。字の大きさとか配置で、目を引いたり、親しみやすさがすごく違うので、その辺を少し工夫していただけたらいいと思う。

<渡部委員>

- ・私は女性農業者人財バンクの一員としてここに出させてもらっている。「資質の向上を目指して視察・勉強会等の研修を実施します。」という、私たちがずっと取り組んできていることや自分達を向上させることを目指している団体であることを認識していただいております、継続したいと思っているが、26ページと27ページの人財バンクの「財」が材料の「材」になっている。私たちは自分たちを財産の「財」、宝という字をあてているので、訂正をお願いします。
- ・全ての項目に「市民が」「事業者が」「市が」とそれぞれあっても、漠然とした表現が多いという感想を持った。人権政策室が主になって何か企画して実行することが、一つずつくらいあってもいいのではないか。岩間さんが言われたが、男女共同参画週間に人権政策室が、例えば夫婦で参加するような講演会を、主体的に開催するようなことはされないのか。「女男」と書いて「みんな」と読むやり方もずっと前にあった。男女共同参画という言葉はその頃から広まり始めたが、認識度はもっと低かったかもしれません。「21世紀になったよ、男女共同参画はどうする」という発言が飛び交った時代だったので、県の農山漁村女性推進大会でスローガンを決める時に「女男」と書いて「みんな」と読むんだと、そういうことも経験してきた。境港市にせっきやく条例があって、計画があるのなら、何か主体的にされることがないのかというのが、私の感想だった。

<高木会長>

- ・考えてやってください。よろしくをお願いします。

<岩間委員>

- ・これは私が勝手に作ったのですが、パンフレットの中のイラストが、一緒に男女共同参画を進めよう、といった非常に見やすいものでいいなあという感じがして、条例の前につけてみた。パッと見た時に何が書いてあるかわかって興味をそそるようなものだ、開いてみようかなあという気持ちに多少なりはしないかと思った。

<松本委員>

- ・先程、金津委員さんの発言にもあったが、今日の議事内容、内容の説明そのものは皆さん概ね良しとなったわけですが、肝心なタイトルのところで若干それぞれの思いのずれがあるようです。前回の会議の最後に「女と男とのいきいきプラン」というネーミングを、よくぞつけた、これでいいんですよと言われた。これはパソコンでだと思うのですが、ルビの振り方の「ひととひと」が小さかったり、大きかったりしていますが、愛称の「女と男とのいきいきプラン」は前回の会議でなかなか境港市としてはグッドだと、またそれがもとに戻るのですか。

<岩間委員>

- ・金津さんは初めて見たとおっしゃったが、何年も前からあるから、これをいつも見ている人は新鮮味がないなあと思うし、初めて見た人は素敵な言葉だなあと思う。報告した時に、こういう意見が出て、こういうふうになりましたと言ったので、今これを変えてくれと提案したわけではない。

<松本委員>

- ・愛称はこれでいって、ルビは小さいので、女が先ですよ。

<事務局・柏木地域振興課長>

→はい。

<入江委員>

- ・全般的に見て、活字にしたらこのようになるだろうし、非常にいいものができると思うが、これをどう広めていくかということの方が重要である。今はこれを作るためにこういうことをしてきたわけですから、今後はこれをどう広めていくかという方にもっと力を入れるべきではないか。当社は県の男女共同参画の認定をいただいているが、企業の中だと目標のパイが狭く、やりやすい。境港市全体となると、かなり大きなパイになるわけですから、どう広めていくかという方が重要であり、もっと大きな人数でやるべきなのではないか。他の会でも感じたことがあるが、人がこれを認識して把握していくということですから、メンバーの中に、各年代層がないといけない。その各年代層が各年代層の中に広めていく。今、おせっかいがご法度ですけれど、おせっかい的な要素を強めながら広げていき、なおかつ、今後そういうものを回顧しながら、改善していくことが必要だと思う。まず、スタートさせることが重要なのかなという気がする。

<戸田委員>

- ・何回か参加させてもらって、すごく読ませていただき、わかりやすく感じている。固定的性別役割分担意識について書いてあったが、確かに僕らの年でも男性女性で、長が男性という意識があったが、これからは意識を変えていかなければならない。これをどういうふうに広げていくか、これから力を入れていきたいと思う。

<岩間委員>

- ・旧の計画では推進体制の整備や計画の進行管理がなかったのが挙げてあり、どう実行されているのか点検できてよい。

4 その他

<事務局・柏木地域振興課長>

- ・皆さんにご意見いただいた内容で、事務局で手直しをしたうえ、9月からパブリックコメントを実施する。意見を踏まえて再度修正したものを、次回の審議会にお諮りしたい。
- ・次回の審議会は11月を予定している。また日程調整をさせていただき、ご出席をお願いしたい。お気づきの点などがあれば、8月28日水曜日までに地域振興課まで文書でいただきたい。

<下坂総務部長>

- ・最後の方に表紙の話がありましたが、あくまでも男女共同参画推進計画が正式名称で、愛称と両方あるわけですが、どちらを大きく書かないといけないということはない。そういう意味で、愛称を大きく書くとか、そういう希望をここで述べていただいている方がいいのですが、どうでしょうか。さっきから聞いている感じだと、結局、男女共同参画社会の推進というのはスパンの長いテーマで、岩間委員さんのように長く関わってこられた方はその言葉が新鮮に映らないわけですが、金津委員さんのような方には非常に新鮮に映る。そのような違いが各個々にあり、それだけ、意識が高い人と低い人が混在している。それをみんな高めていくのが結局の目標というところで、今、「女と男とのいきいきプラン」が決まっているわけですから、これが長く続いていくという形で、前面に推進計画という固い名前が前に出るよりこれが大きく出たほうがいいのではないかと思います。皆さんの意見もそういう風に聞こえるのですがどうなのでしょう。

<岩間委員>

- ・他のところのものを参考に見ると、まず計画がバシッとあって、それぞれの市の目

指すところがあったりしている。私は愛称がここに入れてあっていいなあという感じがした。

<下坂総務部長>

- ・それぞれ利点がある訳ですよね。正式名称の「境港市男女共同参画推進計画」がバンとあると、何の計画かがすぐわかるわけです。ただし、固い。それが「女と男とのいきいきプラン」^{ひとひと}というのがバンと出て、これはなんだという時に小さくでも正式名称が出ているというのと、どちらを選ばれるかということ。

<荒井委員>

- ・愛称が大きい方がインパクトがあるし、パンフレットにするときに活字だけではなくカラーを使ったり、イラストを使ったり。見やすいように中のイメージがわくようなイラストが入っていると、見るんですよ。字ばかりでは見ません。

<金津委員>

- ・さっき表紙に使わせてもらったというイラストが前面にあると、とっつきやすい。文章を見なくてもなんとなく内容が図でわかるというのが一番いいと思う。

<下坂総務部長>

- ・表紙のイメージがあんな感じで、なおかつ、文字が大きくなるのが愛称の方なのか正式名称の方なのか、ここで一応聞いておかないと皆さんのイメージがわからない。

<入江委員>

- ・一般市民に、不特定多数の人にこれが出ていくということが重要ですから、この中に入っていけるものでないとだめなんです。これを見た時になんだという。そういう意味で今の社会はビジュアル社会じゃないですか。読みませんよ。目で入っていかないと、理解の方向へ向かっていかない。言葉がどうのこうのではなく、中身にどうやって入らせるかが重要だという気がします。

<金津委員>

- ・私のイメージでは愛称を大きくして、さっきのイラストを真ん中に置いて、「境港市男女共同参画推進計画」をわかりやすい字体で大きくすれば、まずは開いてもらえるんじゃないかと思う。読むことはすごく大変なことなので、まずは愛称と図で、なんとなくのイメージは大抵の人はわかると思う。

<大西委員>

- ・一般向けには概要版を作られるんですよね。

<事務局・柏木地域振興課長>

→そうですね。

<大西委員>

- ・多分、この分厚いものを市民の方に配られても読まれないと思う。一般向けには概要版で、先ほど言われたようなビジュアル的な部分でとっつきやすさとかを追及されたらいい。計画は、本文は中身が当然固いので、そんなに深く考えなくてもいいのかなという気がします。

<松本委員>

- ・そうすると、この中でどっちを大きくしたいかという意見をまとめた方がいいという訳ですか。

<下坂総務部長>

- ・今、私が皆さんの意見を聞いていたら、金津委員さんが言っておられたようなイメージを感じたのですが。入江さんのお話も表紙だけで捉えると、金津さんと同じような感じですね。

<入江委員>

- ・そうですね。もっと面白くていいんじゃないかという気がします。

<下坂総務部長>

- ・大体、金津さんが言われた方向でということであればそのような形で。

<高木会長>

- ・よろしいでしょうか。
それではご意見ないようですので、よろしくお願いします。

<入江委員>

- ・ちょっと質問ですが、これはデザイナーさんが作られたものですか。

<事務局・柏木地域振興課長>

→いいえ、違います。

<入江委員>

- ・そういうのも活用された方がいいのかなという気がします。そういう人はそういうものをよく知っている。どうすればつかまえられるのかというのが、ものすごく重要なポイントだと思う。

<高木会長>

- ・配慮してやってください。よろしくお願いします。長時間にわたり熱心にご審議いただきありがとうございました。本日の審議会はこれもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

以 上